

2012年度第6回西東京ボランティア・市民活動センター 運営委員会会議録〈確定稿〉

- 開催日時：2013年3月12日（火） 午後6時30分～8時30分
- 開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室
- 出席委員：五十嵐強、伊藤隆志、稲葉孝之、内田日出子、小野田恵、佐野美野里、田中紀子、松尾浩邦、山内淑子〈以上9名、敬称略、五十音順〉
- 欠席委員：野口しほり〈以上1名、敬称略〉
- 事務局：望月利將（事務局長）、丸木敦（地域福祉課長）、篠原保之（係長）

事務局より欠席委員の報告。事務局長より挨拶。その後、資料の確認を行う。

1. 報 告 事 項

(1). 西東京ボランティア・市民活動センター業務報告

事務局：1月～3月の事業報告。主催講座について。1月25日（金）ボランティアはじめて講座を実施。保育ボランティアについて説明を行う。申し込みは8名いたが、当日は5名の参加。受講後、参加者全員、保育の活動に参加している。2月22日（金）ボランティア団体交流会を実施。傾聴ボランティア団体を対象に、シャローム東久留米相談課長を迎えて「傾聴活動時の認知症の方とのコミュニケーションについて」のテーマで学習会を行う。申し込みは30名、当日参加者は22名。3月1日（金）ボランティア懇談会を実施。前半、認知症サポーター養成講座を実施した。後半は懇談会を実施した。活動先でのトラブルについて話が出た。ボランティアのつどい実行委員会について。有志の方で月に1度のペースで話し合いを進めている。6月2日（日）田無総合福祉センターで開催予定。会場が変わり、参加者を増やせるように周知方法について意見をいただいている。3月からは参加団体全体での委員会を開催する。北多摩北部ブロック連絡会について。各市でボランティア担当の体制が変わる予定。コーディネートの進め方も各市で違うので、情報交換を進めていく予定。次年度は6市合同のコーディネーター研修会は行なわない。実習生の受け入れについて。1～2月で4名受け入れを行った。

HP検索数の報告。1月もアクセス数が増加。分析はできていない。「英語」「中国語」「ボランティア保険」などの検索ワードが多かった。

コーディネート状況報告。年度途中で登録をやめた方のカウントについて、2月分で減数分を計上している。3月になって被災地に行かれる方のボランティア保険加入が増えてきている。被災地から戻られてからのボランティア登録について説明を行っている。相談件数は4件。趣味活動の依頼、空缶のプルタブ収集の活動についての問合せがあった。ボランティア依頼では、高齢者施設での定期的な活動についての依頼が多かった。また、保育イベントでの活動依頼が多くなっている。

3月～5月の予定。今年度2回目のボランティアはじめて講座を予定している。今回は、学校での障がい児の付添いボランティアについての説明を行う。学校での活動は、拘束時間が長いこともあり、活動者が少ない状況である。活動しているボランティアと

依頼者の講演を行う予定。現在 14 名の申込みがあった。5 月 14 日(火)に新年度の運営委員会がスタートする。

副委員長：質問をお願いしたい。

副委員長：ボランティアのつどいの会場が変わったが、会場へのアクセスはどのようにになっているのか。

事務局：田無総合福祉センターは駅から遠いというイメージがあったが、近辺の他の施設と比較しても、駅からの距離が数十メートルしか変わらない。他の施設は幹線道路沿いで危ないこともあり、予約のしやすさもあって田無総合福祉センターにした。バスルートもないので、わかりやすい案内を考えている。

副委員長：この場所は分からない人がいるかもしれない。なるべくわかりやすくしてほしい。

事務局：周知方法については、運営委員の方にも協力をお願いしたい。

委員：ボランティアのつどいについて。もう少し詳しく説明してほしい。実行委員会のメンバーの構成について、従来のボランティアのつどいと違っているのかどうかを伺いたい。

事務局：昨年までの反省の中で、事務局となる職員主体で進めすぎていた。昨年までの参加団体から 8 名、市民の方 1 名が実行委員として参加している。参加者を多くするために様々な企画を進めていたが、ボランティアのつどいの本来の目的から外れてしまったという反省があった。たくさんの方に会場に来ていただき、いろいろな体験をしてもらい、ボランティア活動について知ってもらうため、参加団体に楽しい活動紹介を考えてもらう。会場内で紹介場所が分散しすぎてもいけないので、効果的に回ってもらえるようレイアウトを考えている。来場者には、ボランティア活動に参加してもらえるよう働きかけ、お子さんにも喜ばれる内容を考えている。3 月に他市の同様の催し物を見学してきた。そこでは、障がい者施設や高齢者施設が、ボランティアをどのように受け入れているかの説明を行っていて、ボランティア活動者を募っていた。様々な形のイベントがあるので、検討していきたい。また、特技ボランティアの披露の場も考えている。ボランティア間のつながりもできるようにしていきたい。

委員：各ボランティア団体に趣旨を伝えていると思うが、どのように呼びかけを行うのか。

事務局：これまでの経過を含めて、イベントの趣旨についてお伝えする予定。まずは電話で参加の意思を確認し、その後資料の送付を考えている。

委員：開催時期も変わり、会場も変わっているので内容はしっかり伝えた方が良いと思う。また、当日の参加者が少ないとの報告があったが、一般向けで行なうのか、登録ボランティア向けに実施するのかなど、趣旨を確認した方が良いと思う。

事務局：NPO 市民フェスティバルでは、目的を「団体同士の交流」と「活動を広く市民に知ってもらう」という 2 点を挙げていた。反省点として、活動者同士の交流はできていたが、市民への広がりはできていなかったという点が挙げられた。呼び込みはしているが、会場の特性として、工夫が必要だった。当日選挙と同じ日になってしまったが、選挙に来た方を呼び込もうとチラシまきをしたり、田無公民館とのタイアップで会場を使ったりしたが、期待した通りの結果は生まれなかった。他の事業との重なりもあり、一般参加者が少なかった。

進行を委員長に代わる。

2. 審 議 事 項

第5回の議事録について、質問等なく《未定稿》を《確定稿》とすることを承認する。

3. 協 議 事 項

委員長：今年度の報告について説明をお願いしたい。

事務局：この2年間のまとめとして報告を行いたい。市民協働推進センターと機能を分けて現在の運営委員会がスタートした。当初は6名の委員であったが、2年前より10名に増員し、2か月に1回の委員会開催となった。資料では、これまでの協議事項を挙げている。「広報媒体」について。ボランティア情報の発信については、毎回意見をいただいていた。ボランティア活動に関しての周知については、「ぼらんていあ倶楽部」のような紙媒体の必要性、広報紙の使い方・目的・ターゲットの絞り込み・配架先の検討が必要との意見があった。ホームページについては、スマートフォンが広まってきたので、メールの対応ではなくホームページの改善を優先的に行うべきとの意見が出た。また、情報の更新が進まないと読んでもらえないとの指摘があった。「ボランティア登録者の増」について。新規ボランティアを増やす対策として、仕事をしている現役世代へのアプローチや、若い方へのアプローチ、小・中学生に対するボランティア情報の提供とその効果について等の話が出た。人材を求めている情報をどのように出していくか、これまでの手法のみではなく、様々な通信サービスの利用を考えてほしいとの意見が出た。また、「ボランティアは、楽しくないと続かない」という価値観がある一方で、「楽しいだけではない、社会参加という価値観の提唱」をすすめるコーディネートを行うべきとの意見も出た。また、ボランティア間の話し合いの場をつくることも提唱された。コーディネートの中では、依頼者側の姿勢についての意見が多く出た。ボランティアの依頼方法・頼み方・ボランティアに関する基本の考え方など、依頼者によって思いが様々である現状が出されていた。依頼を受けるときの職員の留意点をまとめるとともに、コーディネート時の注意点として、依頼について条件を付けることで、断わる理由づけととらえられないようにすることも挙げられた。また、コーディネートの際に、しっかり聞き取りを行うことの必要性、ボランティアでの活動が可能かどうかという専門性が高い活動（保育・介護）については、今後の検討課題となっている。他市では、保育や障がい者関係の依頼は受けないところもある。当センターとしての方針を今後まとめていく。社会福祉協議会の他事業を、活動場所としてつないでいくことをすすめていく。また、コーディネートの数値化については、完全な形ではないので表記方法などを検討していくことになっている。ボランティア活動をスムーズに進めるために、ボランティアの声をどのように拾っていくかについて。活動後のアンケートをやるのであれば、ボランティアの負担にならないように進める工夫が必要で、日常の依頼や聞き取りで声を拾うことができるように努めてほしいとの意見があった。ボランティア間の懇談会で意見交換を行うと、とても話が盛り上がっている。様々な形での意見の拾い上げを進めていく。研修会の実施について。研修

参加費の有料、無料については、各市で内容が違う。参加意識を持つために有料の研修は効果があると思うが、今後検討していきたい。また、依頼者に対する学習会についても、コーディネーター研修の機会を利用して対応することが提案された。職員体制については、増員を進めたいが直ぐには難しい。長期的な事業の評価やアクションプラン等の検討、防災に関する事業についても、体制がとれば取り組むべきと考えている。委員会の中では、広報媒体・活動の専門性について、数回議題に挙がっている。

委員長：評価したい点は、ボランティア保険の加入者がこれだけいること。これはすごいと思う。コーディネートやボランティア活動の数値化を提唱したが、この数値をどう見るかは今後の問題だと思う。運営委員会の人数体制が増え、とても良かった。委員が6人の時は大変だったが、議論が広がってきたと思う。

委員：ホームページを見る人が多いことは現在の特徴だと思う。ボランティア活動の専門性について。どこまでやるのかについては、ボランティアは不安を感じると思う。今後の取り組みとして、いろいろな人材を求めていくことが大切になる。また、ボランティアの高齢化を感じている。人材募集を発信して、すこしでも若い人が参加すれば、ベテラン勢も活性化してくると思う。広報については今後に期待したい。ボランティア活動の数値化は素晴らしいと思った。とても勉強になった。

委員：運営委員会に参加してはじめは何を言って良いのかわからなかったが、言うべきことがだんだんと分かってきた。他の会議に行っても、同じ方に会うことが多い。新しい参加者に期待したい。

委員長：今後を担う次世代の方に対して。施設に実習生が来ると実習後にボランティアとして活動してもらうが、なかなか続かない。活動の継続は難しいという観点に立つべきだと思う。いずれは福祉関係の職業に就いてくれたらと思っている。新規のボランティアも来れば、辞めていく人も同じだけいる。それは仕方ないと考えていくべき。活動者は別の人を連れてくることもある。個人のつながりは強いし心強い。関係性を広げていかないとボランティアは増えないと思う。ボランティア参加者が楽しいことを伝えてもらいたいと思う。様々なアクションを地域で起こすことは大切。人と人とのつながりを広げ、何かをきっかけにしてアクションを起こすことを進めてほしい。

委員：いろいろな意見を言えることは良かった。皆さんも回りの人から声を拾ってきてほしい。学校の活動で車いす体験の感想文をもらった。内容を見て感動した。このようなつながりを大切にしたい。

委員：ボランティア登録について。地域に呼び掛けるだけではなく、様々な活動団体に呼び掛けることは必要だと思う。保護者の会やPTAは、たくさん会員がいる。各学校のPTAへ働きかけても良いのではないか。学校では、行事のサポーター制度というものがある。いろいろなボランティア活動があることを周知していくと良いと思う。働いている人も多いが仕事をしていない人もいる。特技を活かした活動があることも意外と知られていない。学校では、保護者にボランティア参加のお願いをしている。ぜひ声をかけてほしい。

委員：地域人材への呼びかけは進められている。昔遊びなどで成果がでている。こちらから発信していかないと進まない。

委員：子どもたちの参加について。ボランティア活動が良いことと知っていても、自分からは進んで参加できない。幾つかの経験が積み重なってだんだんと身についてくる。保護者も一緒に積極的に参加していかないと子どもには気持ちは伝わっていかない。小学校・中学校・高校で計画的に進めてほしい。学校間での連携も広めていかないと成果は出ない。ただ、学校間交流は難しい。

委員：小学生の参加について。生活の中でお年寄りを見ていない。高齢者とのふれあいの中で驚きも多い。今の小学生は、普段の生活とボランティア活動先で対応を使い分けている。生活の中でボランティア体験は大切だと思う。

委員：様々なつながりをもたないとボランティアは育たないという話があったが、小学校でボランティア参加の実績がある子どもたちは、中学校に行ってもボランティアに参加することが多い。参加したボランティアに、1年に1回感謝状を送っている。つながりをつくっていくことも大切。中学生のボランティア参加が多いところは、お母さん方の参加が多い場合がある。親を取り込んでいくことは大切だと思う。

委員：仕事をリタイアしてから生活の1つとしてボランティア活動を始めたが、ボランティアの高齢化もいいじゃないかと思う。高齢者の単身者500万人いると言われている。ボランティアを受ける立場か行なう立場かでは大きな違いがある。ボランティア活動は生きがいになる。知り合った仲間同士や男の料理講座を受けたメンバーなどでグループ化をするという話を聞いている。グループ化をしているところにボランティア活動のアプローチをしてはどうか。また、実働部隊として西東京ボランティア・市民活動センターの事業にボランティアが参加してもいいのではないかと思う。NHKの番組で仕事を持っている方のボランティア参加が多いとの話を聞いた。持っている技術を登録してもらってはどうか。

委員：ボランティア活動については、西東京市ではどのように取組んでいるのか。市として取り組んでいる事業はないではないか。他市では、ボランティア活動のポイント化を進めているところもあるが、西東京市では検討されているのか。考えていくのはボランティアセンターの課題ではないか。ボランティア活動とは何かを考えると、理屈ではない部分もあると思う。

事務局：ボランティア活動の推進については、西東京市のいろいろな部署で市民を巻き込んだ活動を進めている。ささえあいネットワークや援農ボランティア、地域防災組織など、テーマごとに進め、市民の協力を求めている。介護保険がらみの有償活動なども、都内の他地域で増えている。西東京市でもそのような取組みをしようという考えが、高齢者保健福祉計画に盛り込まれている。

委員：ポイント制については、以前にも話があったが、活動後に高齢者住宅に優先的に入れたりすると活動者が増えるかもしれない。

事務局：ボランティア活動として考えると、ポイント制については賛否両論あると思うが、そのような活動が存在しても良いとは思っている。また、市民協働推進センターとの機能分けについて、当初は西東京ボランティア・市民活動センターが福祉分野に特化し、市民協働推進センターでは有償活動を含めた市民活動全般を対象にすると考えてきたが、現在では福祉関係団体も市民協働推進センターに登録している。西東京ボランティア・市民活動センターの取組みが市民協働推進センターに取り込まれている状況と

もいえる。西東京ボランティア・市民活動センターとしての使命について考えていきたい。社会福祉協議会としても位置付けを検討したい。

委員：大学のボランティア部の活動について。所属しているところでの活動は2つある。学生向けのボランティア情報誌「ぼらんていあ横丁」の発行と長野県栄村へのボランティア活動を継続している。復興支援の活動については、だんだんと市民の方とのふれあい活動に移行してきている。地域の方とのつながりとして、高齢者や学童保育の子どもたちとの関係が増えている。

委員：学生が参加すると喜ばれるのではないか。

委員：ボランティア活動の内容を自分で企画することは手探りでやっていた。被災者の意向を取込むことは難しかった。しかし、学生でもボランティアができることもわかってきた。とても勉強になったと思う。

委員：委員会に参加して驚いたことは、あまりにボランティアの使い手の対応がひどかったこと。また、子育て中の母親でも参加できる活動があるのではないかと話している。ワンワンパトロールの地域巡回などでは、ボランティアをしている意識が無くても実際はボランティア活動になっていることもあると思う。

委員長：最終的には町づくりができるかどうかだと思う。子育てする人がいて高齢者がいる。お互い見守っていける関係性がボランティアにつながるのではないか。つながりが生まれると豊かさの度合いが高くなる。それぞれで見る視点が違って、ネットワークを組めれば良いのではないかと思う。地域ごとでいろいろな活動があることを知ることができた。

委員：原点は人と人とのつながり。意識しないで助け合う関係に行きつくようにしたい。

委員長：町を豊かにしていくこと。そのために新しい出会いがあり、関係ができ、お互いに不足しているところを補っていくことが大切だと思う。施設でボランティアの集まりをもったが、参加者が多くなっている。人とつながり、新しい関係を作ることが大切。西東京ボランティア・市民活動センターが様々な情報を発信していけばよいのではないか。

委員：はじめは、地域で何も関係性がなかったのが、だんだんと生まれてきた。

委員長：自分の住んでいるところをどうするかを考えていけばよいと思う。

事務局：ご意見を伺って納得できた。人と人とのつながりの大切さを感じた。西東京ボランティア・市民活動センターとして支援していく方法はたくさんあると思う。様々な形でボランティア活動の持つ「豊かさ」を提案していきたい。社会福祉協議会としてできることを取り組んでいかないといけない。

委員長：新しい発想で取り組んでもらいたい。

委員：新たなまちづくりが提唱されているので期待したい。

委員長：たくさんのご意見を頂いた。これからも貴重なご意見を頂きたいと思う。次に次年度の委員会について説明をお願いしたい。

事務局：2013年度の運営委員について。別紙でお示しした通りになる。校長会からは新年度に委員が決まる。各委員には、新年度のボランティア保険の加入を行うのでよろしくお願いしたい。

委員長：2期目の方はよろしくお願いしたい。以上で、今日の協議を終わりにしたい。

4. そ の 他

(1). 次回運営委員会開催日程について

日 時 : 2013 年 5 月 14 日 (火) 18:30~20:30

会 場 : 田無総合福祉センター 4 階第 3 会議室

以上をもって、2012 年度第 6 回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し散会する。